

令和 5（2023）年度  
知床野生動物保護管理対策業務  
報告書



令和 6（2024）年 3 月  
北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所



# 報告書概要

## 1. 業務名（英名）

令和5年度知床野生動物保護管理対策業務

Contract work on Wildlife Management in Shiretoko National Park and Shiretoko Wildlife Protection Area in 2023/2024.

## 2. 業務の背景・目的

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区（以下、保護地域）はヒグマをはじめ多くの希少な野生動物が生息している。一方で保護地域は観光地の側面も有しており、同保護地域内では観光客等の利用者とヒグマとの接触が繰り返し発生している。本業務は、利用者への啓発・指導等を実施することによりヒグマをはじめとする野生動物と人との間の軋轢を取り払い、保護地域における野生動物との共生と利用適正化の推進を図ることを目的として実施した。

## 3. 業務の実施体制

本業務は、環境省からの請負業務として公益財団法人 知床財団が実施した。

## 4. 業務期間

令和5年4月3日から令和6年3月31日

※パトロールやヒグマ出没への対応は本業務の契約期間外の4月1日から2日も実施されているため、報告書内のパトロール回数や目撃情報の集計対象に含めた。

## 5. 業務の実施方法および実施結果

### （1）野生動物との共生と利用の適正化に係る保護管理業務

#### ア) パトロール及び利用者への啓発・指導

保護地域内において野生動物の出没状況についてパトロールを実施した。その際、利用者

の不適切な行動が認められた場合には、利用者に対して啓発・指導を行った。

保護地域におけるヒグマの目撃件数は計 2,129 件（斜里町 1,774 件、羅臼町 355 件）であり、パトロールの実施回数は計 1,182 回（斜里町 952 回、羅臼町 230 回）であった。利用者による不適切な行動への対応は 207 件（斜里側 199 件、羅臼側 8 件）発生した。このうち改正自然公園法（自然公園法 37 条第 1 項第 3 号）による規制対象である「野生動物に著しく接近し、又はつきまとうこと」や「野生動物に餌を与えること」に該当する可能性のある案件として、それぞれ「ヒグマへのつきまとい（接近のうち特に悪質と思われるもの）」が 7 件（斜里：7 件、羅臼 0 件）、「野生動物への餌やり又は誘引物の投棄」が 2 件であった。また、対応した案件のうち実際に啓発・指導を行った回数及び述べ人数は 444 回／1,684 人（斜里町 442 回／1,682 人、羅臼町 2 回／2 人）であった。

#### イ) 野生動物に関する情報発信

ヒグマ等の野生動物の出没状況について、保護地域内の施設利用上危険があると判断された場合は各施設および関係機関に周知するとともに、その旨を知らせる看板を作成・設置した。また、斜里町および羅臼町内の計 21 地点において、ヒグマ出没に関する注意事項や野生動物の保護を啓発するための看板の設置・撤去を実施した。

## (2) 死亡・傷病鳥獣の処理対応

保護地域内で死亡もしくは傷病状態にある鳥獣（斜里町・羅臼町内で死亡もしくは傷病状態にある希少種含む）について、環境省担当官の指示を受けて、指定された現地において傷病個体を確保（以下、確保した傷病個体を「保護個体」という。）し、以下の①から③の状況に応じて仕様書に基づき収容等の作業を実施した。

### ① 保護個体が生体の場合

現地において個体を観察し、必要に応じて応急処置を行い、放逐可能と判断される場合は放逐を行った。傷病鳥獣の保護件数は、斜里町で 5 件、羅臼町で 12 件であった。特記すべき事項として、高病原性鳥インフルエンザに感染したクマタカの対応が 1 件、オジロワシの傷病対応が 1 件、オオワシの傷病対応が 2 件発生した。

### ② 保護個体が死体の場合（生体が死亡した場合を含む）

野生鳥獣死体の回収件数は、斜里町で 15 件、羅臼町で 5 件の計 20 件であった。特記すべき事項として、オオワシの死体回収対応が 2 件発生した。

### ③ 高病原性鳥インフルエンザの感染が疑われる場合

保護個体の状況、全国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況、周辺の状況等から高病原性鳥インフルエンザの感染が疑われる保護個体の場合は、環境省担当官と相談のうえ、「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」に則り対応を行った。高病原性鳥インフルエンザへの感染が確認された鳥類は、1件1種1羽であった。



## 目次

1. はじめに.....	1
2. 業務実施方法.....	2
3. 業務実施結果.....	7
3.1. 野生動物との共生と利用の適正化に係る保護管理業務.....	7
3.1.1. パトロール及び利用者への啓発・指導.....	7
3.1.2. 野生動物に関する情報発信.....	28
3.1.3. その他.....	66
3.2. 死亡・傷病鳥獣の処理対応.....	68
3.2.1. 保護個体が生体の場合.....	68
3.2.2. 保護個体が死体（生体が死亡した場合を含む）の場合.....	71
3.2.3. 鳥インフルエンザの感染が疑われる場合.....	73

表紙写真

高病原性鳥インフルエンザの感染が疑われるクマタカを現場から搬送する様子（斜里町：11月26日）



## 1. はじめに

世界自然遺産地域に登録された知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区（以下、保護地域）はヒグマをはじめシマフクロウやオジロワシなど希少な野生動物が多数生息している。一方で、保護地域は新型コロナウイルス流行前で年間約 180 万人が訪れる観光地の側面も有しており、毎年多くの観光客等の利用者とヒグマとの接触が繰り返し発生している。その結果、知床五湖等の遊歩道の一時閉鎖や登山道・トレッキングルートの利用自粛となるような状況が度々発生し、ヒグマと利用者との軋轢への対策が課題となっている。さらに、一般道路沿いにおいてはシマフクロウ等の希少鳥類も生息しており、利用者による付きまとい・接近撮影等による負の影響が懸念されている。

本業務は、利用者側の啓発・指導等を実施していくことで、ヒグマをはじめとする野生動物（哺乳類および鳥類、以下同様）と人との間の軋轢を解消し、保護地域における野生動物との共生と、利用適正化の推進を図ることを目的とした。なお、本業務における利用者とは、保護地域を利用する観光客および地域住民等とした。

## 2. 業務実施方法

### (1) 実施範囲

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区。なお、保護地域内の主要地点名は、図1のとおりである。

### (2) 業務実施期間

令和5(2023)年4月3日から令和6(2024)年3月31日(※以下、西暦で統一する)

### (3) パトロール及び利用者への啓発・指導

保護地域内において、野生動物の出没状況についてパトロールを行い、利用者の不適切な行動が認められた場合には、利用者に対し啓発・指導を実施した。なお、人と野生動物の間に生じている軋轢はヒグマが大半を占めている。そのため、本業務ではヒグマの出没状況を把握することを目的として、目撃情報を利用者からアンケート形式で収集した(図2)。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況、個体の特徴等を記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設(知床自然センター、国指定知床鳥獣保護区管理センター、知床五湖フィールドハウス、木下小屋、知床羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス)に配置した。アンケートの記入は、目撃者に直接記入してもらうこともあったが、各施設内やパトロール等の対応中に利用者から目撃状況を聞き取った知床財団職員が、代理で記入するケースもあった。また、知床財団職員が直接ヒグマを目撃した場合にも記入した。

目撃情報の集計は、地区別・月別に分けて集計した(表1)。なお、ヒグマの観察を目的とする観光船からの目撃や、少数の漁業番屋しか存在しない斜里町の知床大橋から知床岬までの間の目撃については基本的に本集計の対象外とし、人との軋轢を確認した場合のみ集計した。

### (4) 野生動物に関する情報発信

パトロール等により得られたヒグマの出没状況等の情報は、利用者が立ち寄る施設(知床世界自然遺産センター、知床自然センター、知床五湖フィールドハウス、知床羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス)の掲示物やインフォメーションで情報発信を行えるように、適宜各施設及び関係機関に周知した。また、斜里町及び羅臼町内の21地点において、

ヒグマ出没に関する注意事項や野生動物の保護を啓発するための看板を設置した。さらに、羅臼岳登山道、硫黄山登山道、フレペの滝遊歩道、羅臼湖歩道などの歩道入口にはヒグマ出没状況に応じて注意看板を設置した。

#### (5) 死亡・傷病鳥獣の処理対応

保護地域内で死亡もしくは傷病状態にある鳥獣(斜里町・羅臼町内で死亡もしくは傷病状態にある希少種含む)について、環境省担当官の指示を受けて、指定された現地において傷病個体を確保し状況に応じて収容等の作業を実施した。なお、周辺地域において既に高病原性鳥インフルエンザが発生している又はその発生が強く疑われる場合は、環境省担当官と相談のうえ「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル(環境省)」のⅢ.3.3に則り対応を実施した。



図 1. 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内の主要地点名

**ヒグマ目撃アンケート** 観察・五湖・イカム・運山・横断道・峠・トオシ・その他

ヒグマに対する安全対策のための貴重な資料になりますので、お手数ですがご協力ください。 No. 1974  
 該当する選択肢に○印をつけ、必要な項目を記入ください。

1. ヒグマを見た日時は? 2023年 11月 10日 11:30

2. ヒグマがいた場所は? その場所を裏面の地図に×印をつけて示してください。→ 裏面の地図へ  
 また、分かる範囲で地名を記入してください【梶川橋】

3. クマの構成は? 大きさ D × 1頭 (例: D×1)  
 大きさ \_\_\_\_\_ × \_\_\_\_\_ 頭 (例: C×2)  
 大きさ \_\_\_\_\_ × \_\_\_\_\_ 頭  
 あるいは \_\_\_\_\_ 歳 頭連れ親子

4. 現場で問題は発生していましたか?  (1) 停車 (2) 交通障害 (3) 餌付け (4) その他 3台～5台

5. クマは何をしていましたか?  
 (1) 移動していた (2) 立ち止まっていた (3) その場をうろろしていた (4) 木に登っていた  
 (5) 何かを食べていた (何を?) \_\_\_\_\_ (6) 巣を探していた (7) その他 \_\_\_\_\_

6. クマの特徴は? 確認済  不明   
 耳タグ 有  無  不明   
 耳タグ色 左 \_\_\_\_\_  
右 \_\_\_\_\_

7. あなたの状態は? (1) 徒歩 (2) 車の中にいた (3) その他 \_\_\_\_\_

8. クマとあなたとの距離は? → 約 30メートル 橋の下

9. クマはあなたに気づいていた?  (1) 気づいていた (2) 気づかなかった (3) 不明

10. クマを発見して、あなたはどうしましたか? (1) 静かにしていた (2) 大きな物音/声を立てた  
 (3) その他 \_\_\_\_\_

11. 人に対するクマの反応は?  (1) その場を動かず (2) 走って逃げた (3) ゆっくり立ち去った  
 (4) ゆっくり近づいてきた (5) 歯を鳴らす or うなった (6) 突進してきた  
 (7) その他 \_\_\_\_\_

目撃者の名前 (任意) 一般 ご協力ありがとうございました。

スタッフ記入欄  
 受付施設: 一般 担当 岡田 受付日 11/10 観察実況: 有/無 観察時間: 有/無 最終回収日: 11/10 回収者 藤野 対応: 有/無

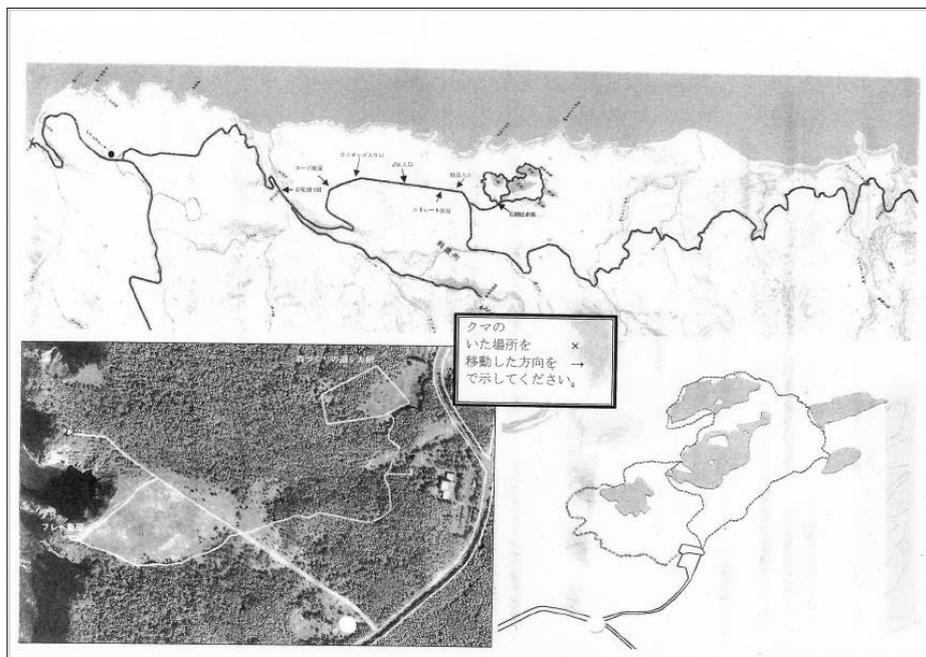


図2. ヒグマ目撃アンケート用紙の例 (上: 表面、下: 裏面)

表 1. 知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地域区分

斜里町	国立公園および国指定知床鳥獣保護区	幌別ー岩尾別地区	国道 334 号線幌別橋から幌別園地を經由し道道知床公園線三峰橋に至るまでの道路沿いと町道岩尾別温泉道路沿い、町道五湖道路沿いおよびフレベの滝遊歩道沿い。	
			岩尾別川沿い	岩尾別川河口から孵化場取り付け道路入り口に至るまでと町道岩尾別温泉道路で岩尾別温泉に至るまで道路沿い。
			幌別川	幌別川河口部と幌別橋の上下流方向、それぞれ約 100m までの河川内と河畔林内。
			フレベ遊歩道	フレベの滝遊歩道沿いおよび灯台管理道路沿い。
			森づくりの道	森づくりの道シカ柵コース及び開拓小屋コース。
			その他	国道 334 号線幌別川から幌別園地に至る道路沿い、道道知床公園線幌別園地から三峰橋及び知床五湖駐車場に至るまでの道路沿い。
		知床五湖園地地区	知床五湖駐車場と知床五湖高架木道および知床五湖地上遊歩道沿い。	
		イダシュベツター カムイワッカ地区	その他	道道知床公園線知床五湖との分岐から知床大橋に至るまでのカムイワッカを除く道路沿い。
			カムイワッカ地区	道道公園線ミラーNo. 5 から硫黄山登山道入り口までのカムイワッカ川沢内。
		知床連山登山道地区	木下小屋登山口から羅臼岳、硫黄山を經由し硫黄山登山口に至るまでの登山道沿い。	
知床横断道地区	国道 334 号線幌別ゲートから知床峠に至るまでの国道沿い。			
知床岬地区	知床大橋から知床岬まで、文吉湾オコツク番屋周辺等。			
国指定知床鳥獣保護区	幌別川ーオベケブ川地区	国立公園外の国指定知床鳥獣保護区で幌別川とオベケブ川に挟まれたエリア。		
羅臼町	国立公園および国指定知床鳥獣保護区	崩浜ー知床岬地区	アィドマリ川左岸から知床岬先端部までの道路が無い海岸線を主体とする地区。知床沼ー知床岳への登山ルートも含む。	
		ルサー相泊地区	道道知床公園・羅臼線沿いの北浜（ルサ川左岸）から相泊までの地区。	
		湯ノ沢町ー知床峠地区	国道 334 号線沿い湯ノ沢町温水プール前から知床峠までの地区。羅臼湖歩道および熊越の滝も含む。	
		羅臼岳登山道地区	羅臼岳登山道の羅臼温泉登山口から山頂までの区間。お花畑トラバースルートを含む。	
	国指定知床鳥獣保護区	羅臼市街地北側ー岬町地区	国立公園外の国指定知床鳥獣保護区で、道道知床公園・羅臼線沿いの羅臼市街地の船見町（羅臼川左岸側）から北浜（ルサ川右岸）までの地区。海岸、道路および民有地を含まない、町有林と国有林。	

### 3. 業務実施結果

#### 3.1. 野生動物との共生と利用の適正化に係る保護管理業務

##### 3.1.1. パトロール及び利用者への啓発・指導

保護地域において、野生動物の出没状況についてパトロールを実施した。パトロールは利用者が多いエリアを中心に行い、利用者の不適切な行動が認められた場合には、該当者に対し啓発や指導を行うとともに、必要に応じて速やかに環境省へ連絡した。野生動物の出没状況やパトロールの実施状況を以下に整理した。

なお、野生動物と人との間の軋轢の発生事案についてはヒグマが大半を占めるため、特にヒグマに関する事案については詳細に記述した。

##### (1) ヒグマの出没状況およびパトロールの実施状況

2023年4月から2024年3月までの期間中、保護地域におけるヒグマの目撃件数は2,129件であった。目撃件数を町別で見ると、斜里町で1,774件、羅臼町で355件であった(表2)。地区別に集計すると、斜里町では幌別―岩尾別地区が979件と最も多く、次いで幌別川―オペケプ川地区が265件であった。羅臼町では羅臼市街地北側―岬町地区が129件と最も多く、次いで崩浜―知床岬地区が75件であった。月別では、両町とも7月の目撃件数が最も多かった。

本年度の保護地域におけるパトロールの実施回数は1,182回であった(表3)。パトロールの実施回数を町別で見ると、斜里町で952回、羅臼町で230回であった。さらに地区別に集計すると、斜里町では幌別―岩尾別地区が501回と最も多く、次いで幌別川―オペケプ川地区が332回であった。羅臼町では羅臼市街地北側―岬町地区が134回と最も多く、次いで湯ノ沢町―知床岬地区が50回であった。月別では、両町とも10月の実施回数が最も多かった。

自然公園法が一部改正されたことを受け、国立公園の利用が集中する休日や祝日には環境省担当官と共同でパトロールを実施した。共同パトロールは計14回(5月に2回、8月に3回、9月に2回、10月に6回、11月に1回)実施した。

地区別・月別のヒグマ目撃状況とパトロールの実施状況については次項に詳述する。

なお、12月から3月は一般的にヒグマの冬眠時期であり、また国立公園内の重たる道路や及び利用施設が冬季閉鎖となるため、ヒグマをはじめとする野生動物に関連するパトロ

ールが発生した場合のみ集計した。

表 2. 地区別・月別のヒグマ目撃件数（2023 年 4 月から 2024 年 3 月）

地区区分	月												計	前年比 (%)
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
幌別-岩尾別地区	63	113	127	232	113	169	118	40	4	0	0	0	979	122
知床五湖園地地区	0	8	46	98	36	30	33	0	0	0	0	0	251	170
イダシュベツ - カムイワッカ地区	0	0	14	24	11	12	1	0	0	0	0	0	62	194
斜 知床連山登山道地区	0	4	7	40	35	52	6	0	0	0	0	0	144	200
里 知床横断道地区	1	6	35	19	5	1	6	0	0	0	0	0	73	92
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幌別川-オベケブ川地区	34	57	11	18	11	43	76	13	2	0	0	0	265	166
小計	98	188	240	431	211	307	240	53	6	0	0	0	1774	137
崩浜-知床岬地区	0	0	13	46	7	3	6	0	0	0	0	0	75	278
ルサ-相泊地区	0	3	1	6	10	11	17	5	4	0	0	0	57	317
羅 湯ノ沢町-知床峠地区	0	0	24	16	6	12	4	1	0	0	0	0	63	158
白 羅臼岳登山道地区	0	0	4	16	4	7	0	0	0	0	0	0	31	1033
羅臼市街地北側-岬町地区	0	3	2	3	11	32	58	20	0	0	0	0	129	358
小計	0	6	44	87	38	65	85	26	4	0	0	0	355	286
合計	98	194	284	518	249	372	325	79	10	0	0	0	2129	150

※集計は 2024 年 3 月 12 日現在

(単位：回)

表 3. 地区別・月別のパトロール実施回数（2023 年 4 月から 2024 年 3 月）

地区区分	月												計	前年比 (%)
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
幌別-岩尾別地区	49	61	73	113	70	67	47	18	3	0	0	0	501	142
知床五湖園地地区	0	0	1	0	22	17	21	0	0	0	0	0	61	124
イダシュベツ - カムイワッカ地区	0	0	2	4	2	0	1	0	0	0	0	0	9	180
斜 知床連山登山道地区	0	2	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0	11	1100
里 知床横断道地区	0	4	21	8	5	0	0	0	0	0	0	0	38	100
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幌別川-オベケブ川地区	26	46	13	15	14	76	103	36	3	0	0	0	332	291
小計	75	113	113	143	115	161	172	54	6	0	0	0	952	170
崩浜 - 知床岬地区	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	6	600
ルサ - 相泊地区	0	2	3	7	8	8	7	1	1	0	0	0	37	336
羅 湯ノ沢町 - 知床岬地区	0	1	19	11	7	4	5	3	0	0	0	0	50	76
白 羅白岳登山道地区	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	150
羅白市街地北側 - 岬町地区	0	4	6	6	9	30	46	30	3	0	0	0	134	383
小計	0	7	29	28	24	44	60	34	4	0	0	0	230	200
合計	75	120	142	171	139	205	232	88	10	0	0	0	1182	175

※集計は 2024 年 3 月 12 日現在

(単位：回)

## 【斜里町】

### 幌別－岩尾別地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は 979 件（前年比 122%）、パトロール実施回数は 501 回（前年比 142%）であった。

昨年度と比較して 7 月から 9 月にかけて目撃件数が顕著に増加しており、この時期におけるヒグマの餌資源不足が原因と考えられる。今年度は多数のヒグマがヤマグワの実に長期間にわたって執着するなど、例年と異なる傾向が確認確認され、ヒグマの餌資源が不足していると推測された。公園利用者の多いフレペの滝遊歩道周辺には多数のヤマグワが散在して自生しており、そこに複数のヒグマが定着していたため、長期間（7/14～8/4）遊歩道が閉鎖される事態となった。

また、岩尾別川周辺では例年同様にヒグマが頻繁に出没しており、公園利用者がヒグマに接近するなどのヒグマと人の軋轢が多数確認された。改正自然公園法の具体的な取り締まり数値基準の確定もあり、環境省職員と警察職員との合同パトロールを実施し、同時に広報活動も行った。ヒグマへの接近に関する取り締まり数値基準の確定後、ヒグマへの過度な接近をする利用者は減ったが、ヒグマの撮影目的と思われる利用者はパトロール時にほぼ毎回確認された。これは今年度の秋は特に、岩尾別川や幌別川などのサケが遡上する河川付近では、ヒグマが簡単にかつ自由に観察できる状況であったためと考えられる。

この他、特記すべき事項は以下の 3 つが挙げられる。

#### ① 国道沿いで車両に接触するヒグマが確認される

4 月 9 日、国立公園内の国道上で、道路上に出没していたヒグマに気付き停車した車両に対し、前方から接近してきたヒグマがボンネットにつかまり立ちをする事例が発生した。当該目撃者（車両を触られた当人）の宿泊先ホテル経由で情報と動画の提供を受けた。この個体は外見的特徴から、昨年度主に知床横断道路にて同様の行動をとっていたヒグマと同一の可能性が高いと考えられた。目撃者から直接聞き取りを行うことは出来なかったが、ホテルからの二次情報によると、接触による車両の損傷はないとのことであった。

付近では、前日の 4 月 8 日にも車両に興味を持って接近するような素振りを見せるヒグマが確認されていたことから、SNS 等を使用して注意喚起を行った。

### ② 遊歩道付近でヒグマによる付きまといが発生

4月21日、森づくりの道開拓小屋コースの遊歩道外を1人で散策していた地元ガイドが、ヒグマに付きまといられる事例が発生した。10mほど先のササ藪にいたヒグマがガイドに向かって3mほどの距離まで走り寄って停止した後、ゆっくりと接近してきたため、ガイドは声を出しながらヒグマから離れるように5～10mほど後退した。しかしヒグマはさらに距離2mほどまで接近してきたため、ガイドはヒグマの顔面を目掛けてクマスプレーを噴射した。スプレーは命中し、ヒグマは一度方向転換したが、再度ストーキングを始めたため、ガイドは声量を落として声掛けを行いながら後退を続けた。その後、ヒグマは林内へ立ち去ったとのことであった。

目撃情報を受け、直後に遊歩道を閉鎖して調査を行ったが、目視や痕跡の発見には至らなかった。その後、閉鎖を継続して開拓小屋コースの経過観察を行っていた所、4月28日に開拓小屋コースと隣接するフレペの滝遊歩道において、ヒグマ目撃情報を受け調査していた対策員に対して、向かってくる素振りを見せるヒグマが確認された（写真1）。当該ヒグマはガイドに付きまとった個体と同一の可能性も考えられたため、遊歩道の管理者である斜里町と協議し、フレペの滝遊歩道及び森づくりの道（開拓小屋コース・シカ柵コース）を当面の間閉鎖することとなった。閉鎖期間には、各遊歩道のパトロールを実施して経過観察を行った。その後、同様の行動をとるヒグマは確認されなかったため、5月1日より全ての遊歩道を開放した。以降、同様の事案は発生していない。

### ③ 宿泊施設の露天風呂にヒグマが複数回侵入

宿泊施設の支配人より10月12日前後に複数回にわたって、ヒグマが露天風呂の敷地に侵入しており、敷地に隣接する場所でもヒグマの目撃が相次いでいるとの情報が10月14日に入った。従業員が撮影した動画には、単独亜成獣サイズのヒグマが高さ2m程の塀を乗り越えて露天風呂敷地に侵入する様子が撮影されていた。また、支配人によると、これまで露天風呂で確認されたヒグマはいずれも単独であるとのことであった。

情報を受け現地調査を実施したが、敷地内やその周辺にも目立った誘引物や痕跡は確認されなかった。宿泊施設からの要請を受け、侵入防止のため侵入経路と考えられたルートを塞ぐ形で応急的に電気柵を設置した（写真2）。電気柵設置後、同様の侵入事案は発生せず、宿泊施設の営業最終日に電気柵を撤去した。



写真 1. フレペの滝遊歩道沿いで対策員に向かってくる素振を見せたヒグマ（斜里町：4月28日）



写真 2. ヒグマが乗り越えた塀に電気柵を設置した様子（斜里町：10月16日）

## 知床五湖園地地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は 251 件（前年比 170%）、パトロールの実施回数は 61 回（前年比 124%）であった。月別の目撃件数は 7 月が 98 件と最も多く、パトロール回数は 8 月が最多で 22 回となった。以下に詳述するが知床五湖は制度上、5 月～7 月はほとんどパトロールを必要としないため、7 月のパトロール件数は 0 回となっている。7 月にヒグマの目撃件数が例年より多かった理由としては、知床五湖遊歩道周辺はミズバショウなど夏も利用できる餌資源があるため、ヒグマの遊歩道周辺の利用頻度が高かった可能性が挙げられる（写真 3）。

知床五湖は自然公園法に基づく「利用調整地区」に指定されており、例年 5 月 10 日から 7 月 31 日は「ヒグマ活動期」とされている。ヒグマ活動期に地上遊歩道の散策をするためには、環境省等から構成される「(知床五湖利用のあり方協議会) 知床五湖登録引率者審査部会」によって、一定の技量と知識を有すると認定された「登録引率者」の実施するツアーへの参加が義務付けられている。ヒグマ活動期に地上遊歩道でヒグマと遭遇した場合、登録引率者がツアー中止の判断を下した場合に限り、遊歩道は閉鎖となる。一方で、8 月 1 日以降は「植生保護期」とされており、ヒグマ遭遇時のレクチャーを受講した者であれば誰でも自由に地上遊歩道を散策できるが、ヒグマの遭遇があった時点で地上遊歩道は閉鎖となる。今年度は「植生保護期」の秋期に利用者とヒグマが頻繁に遭遇したため、地上遊歩道の閉鎖が一定期間に集中的に複数回発生し、これに伴うパトロールも頻繁に発生した。中には、利用者がヒグマにブラフチャージを受けるなど、例年には無い危険な遭遇が 2 件も発生した。

また、特記すべき事項としては、地上遊歩道で利用者がヒグマに複数回遭遇し、遊歩道内で立ち往生する事態が 2 件発生したことである。9 月 8 日の例は、地上遊歩道 N-0 地点間にて亜成獣ヒグマと遭遇した利用者は遊歩道を引き返して逆路で進行中に、その先の B-C 地点間にて滞留する親子ヒグマと遭遇し、退出中に合流した多人数の利用者も C-D 地点間で立ち往生してしまう状況が発生、さらに立ち往生中に D-E 地点間でヒグマが出現するなど、現行の遊歩道の利用ルールでは対処できない状況であった（図 3）。立ち往生したグループの中に、五湖フィールドハウスと連絡を取ることのできる無線機を所持した登録引率者が偶然いたためこの事態が早期に発覚し、応援を呼ぶなどの対応を迅速に行い、利用者を遊歩道外に待避させることができた。



写真3. 遊歩道沿いでミズバショウを採食する親子ヒグマ（斜里町：8月5日）

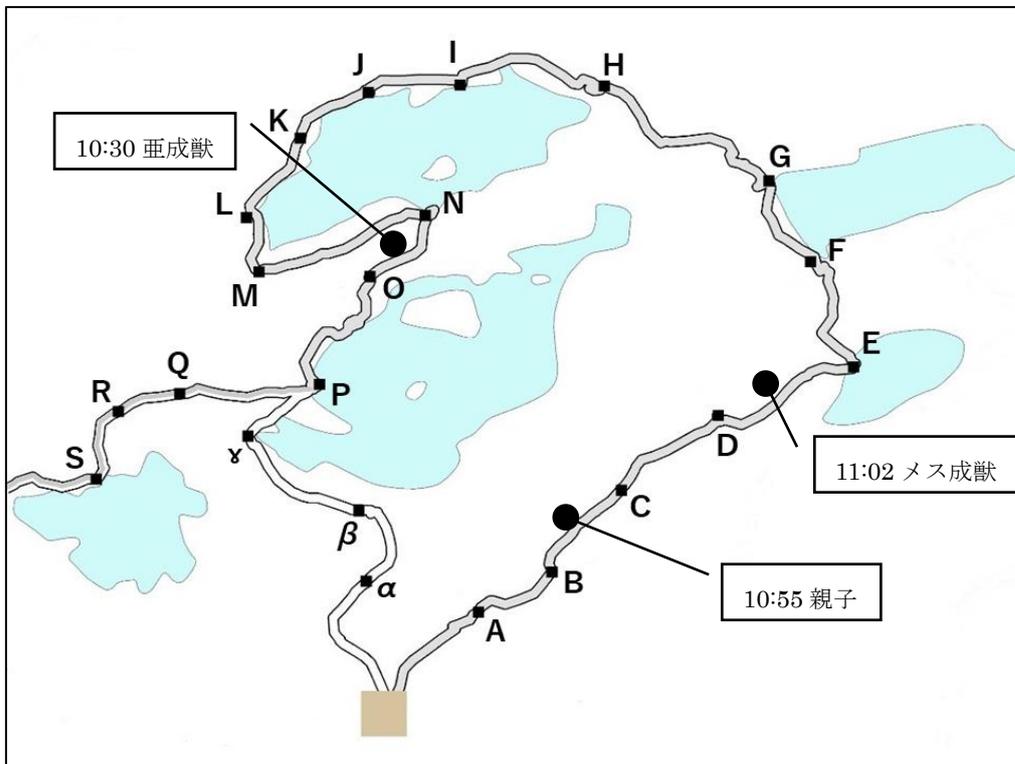


図3. 9月8日にヒグマの出没が同時多発した際の状況

## イダシュベツーカーカムイワッカ地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は62件（前年比194%）、パトロールの実施回数は9回（前年比180%）であった。

知床財団の対策員の拠点施設（国指定知床鳥獣保護区管理センター）から同地区までは15から20kmの距離があり、現場到着まで時間を要するため、ヒグマの出没に伴うパトロール等の件数は例年少ない傾向にある。

目撃件数が増加した理由として考えられるのは、カムイワッカの利用形態の変化が挙げられる。今年度より、カムイワッカ湯の滝の体験が有料のアクティビティとして本格的に運用され、現地利用の共用期間中の大半は日中に複数の監視員が常駐しており、例年よりもヒグマ目撃情報が入りやすくなったことが要因の一つと考えられる。

特記すべき事項としては、8月中旬から9月中旬にかけてカムイワッカ湯の滝体験の現場事務所付近にて単独のヒグマが出現し、周辺を徘徊する事案が発生したことである（写真4）。当該ヒグマは、人の存在を気にすることなく人や物に接近し徘徊するなど、事故が起こりかねない状況であったが、人に対して危害を加えることはなく、9月中旬以降は姿を見せなくなった。



写真4. 現場事務所に接近する単独ヒグマ（斜里町：8月13日）

## 知床連山登山道地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は144件（前年比200%）、パトロールの実施回数は11回（前年1回）であった。

特記すべき事項として、5月5日に単独登山を行っていた登山者が、羅臼岳登山道岩尾別温泉コースでヒグマと至近距離で遭遇し、クマスプレーを噴射する事例が発生した。登山者はオホーツク展望付近で単独亜成獣サイズのヒグマと距離3～5mの至近距離で遭遇し、ヒグマが驚いた様子で唸り声をあげ、登山者の方向に移動したため（威嚇突進ではない）、クマスプレーを噴射した。スプレーは顔面に命中したがクマが動じなかったため、登頂を諦め下山したとのことであった。この登山者は、2日後の5月7日にも標高420m地点で同一個体と思われるヒグマに遭遇し、50mほど離れていたがヒグマに唸られたとのことであった。詳細を関係行政機関（環境省・北海道森林管理局・北海道・斜里町）に共有し、5月9日に登山道入り口に注意喚起看板を設置した。

その後、他の登山者が前述より以前の5月4日に同一地点付近で複数のヒグマに遭遇したため登頂を諦め下山したとの情報が入ったことから、誘引物等の確認のため現地調査を実施した。その結果、鹿の死体等の誘引物は確認されなかったが、付近には昨年のおミズナラ堅果が多数残っていたことから、堅果を食べるためにヒグマが出没していたと考えられた。その後は、同様の事例は発生していない。

## 知床横断道地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は73件（前年比92%）、パトロールの実施回数は38回（前年比100%）であった。目撃件数・パトロール実施回数ともに前年度と比較し大きな変化はなかったが、例年に比べ目撃件数や対応件数は大幅に増大している。同地区では、昨年度のような車両に接触するヒグマの目撃はなく、特記すべき事例は発生しなかったが、ヒグマがアリを採食するために道路脇に滞留し、通行車両がヒグマに接近してしまう状況は、例年通り多数発生した。



写真5. 道路脇に滞留するヒグマを観察する一般車両（斜里町：7月7日）

### 幌別川ーオペケブ川地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は265件（前年比166%）、パトロールの実施回数は332回（前年比291%）であった。

特記すべき事項として、本年度の秋期以降は国立公園の境界である幌別川から、人の生活圏であるウトロの市街地へ向かって移動するヒグマが頻繁に確認された事である。平年は主に国立公園内を行動圏としているヒグマが、餌資源不足により行動圏を拡大した結果、幌別川からウトロの市街地にかけての保護地域から海岸などにヒグマが頻出したものと推測されている（写真6、7）。



写真6. ウトロ東地区の海岸で滞留するヒグマ（斜里町：9月25日）



写真7. 対策員の追い払いにより国立公園へ戻る親子ヒグマ（斜里町：10月27日）

## 【羅臼町】

### 崩浜-知床岬地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は75件（前年比278%）、パトロールの実施回数は6回（前年1回）であった。75件のうち31件は環境省羅臼自然保護官事務所と知床財団がそれぞれ行った先端部地区方面への巡視またはヒグマ対応の際の目撃であった。

特記事項としては、知床岬地区にて実施されていた環境省事業「令和5年度知床国立公園（非積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務」のエゾシカ捕獲現場において、6月28日に作業員1名がヒグマに襲われ負傷する事故が発生し、7月20日に行われた同事故の現場検証中にヒグマによるつきまといが2回発生したため（第2期知床半島ヒグマ管理計画で定めるヒグマの行動基準で「行動段階3」）、7月27日に当該個体の捜索が行われ、有害捕獲された事例が挙げられる（写真8）。なお、有害捕獲されたヒグマは6月28日に作業員を襲ったヒグマとは別個体であると考えられている。

先端部地区方面でのヒグマ目撃情報は、知床羅臼ビジターセンター及びルサフィールドハウスへ共有し、先端部利用者向けのレクチャーの際などに活用した。また、7月に2件の動物死体の海岸漂着情報があったことから、それぞれ先端部利用者向けの注意喚起看板を設置した。



写真8. 知床岬先端部地区にて人につきまとう行動を見せたヒグマ（羅臼町：7月20日）

写真提供：環境省釧路自然環境事務所

## ルサー相泊地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は 57 件（前年比 317%）、パトロールの実施回数は 37 回（前年比 336%）であった。月別の目撃件数は 10 月が最も多く 17 件、パトロールの実施回数は 8 月および 9 月がともに最も多く 8 回であった。今年度は羅臼町内各地でヒグマの出没が相次いだため、同地区においても目撃件数およびパトロールの実施回数ともに前年度を大きく上回った。

特記すべき事項として、同地区では、投棄された食品ゴミをヒグマが食べる事例（写真 9）や倉庫のシャッターをヒグマに破壊されるなど危険な事例が 3 件発生したことが挙げられる。



写真 9. 投棄された食品ゴミをヒグマが食べた跡の様子（羅臼町：8 月 25 日）

## 湯ノ沢町一知床峠地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は63件（前年比158%）、パトロールの実施回数は50回（前年比76%）であった。前年度と比較すると、同地区では、目撃件数は増加したが、パトロール実施回数は減少した。

前年度は、知床横断道路沿いにて特定のヒグマが何度も出没し、車両に接触するなどの危険事例が羅臼町側で4件確認されたが、今年度については、目撃件数は前年度より増えたものの同様の事例は1件のみであった。



写真 10. 羅臼温泉集団施設地区の建物前を歩くヒグマの姿（羅臼町：9月29日）

## 羅臼岳登山道地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は31件（前年3件）、パトロールの実施回数は3回（150%）であった。今年度は、6月後半から9月上旬にかけて親子連れを中心としたヒグマの目撃が相次ぎ、目撃件数は前年度の3件から大きく増加した。6月29日には、草刈り中の作業員が子グマを連れた母親グマからブラフチャージを受ける事例が発生したため、登山道入り口に注意喚起看板を掲示した。その後もヒグマの目撃が続いたため、随時注意喚起看板の内容を更新した。

## 羅臼市街地北側一岬町地区

同地区におけるヒグマ目撃件数は 129 件（前年比 358%）、パトロールの実施回数は 134 回（前年比 383%）であった。月別の目撃件数は 10 月に最多の 58 件、パトロールの実施回数も同じく 10 月に最多の 46 回となった。同地区においても他地区と同様に目撃件数およびパトロールの実施回数ともに前年度を大きく上回った。

特記すべき事項として、同地区では、深夜に漁業者がヒグマに追いかけられる事例やゴミステーションがヒグマに荒らされるなどの危険な事例が 8 件発生した（写真 11）。



写真 11. ヒグマに荒らされたゴミステーションの様子（羅臼町：9月9日）

## (2) 利用者への啓発・指導

パトロール中に確認された利用者による不適切な行動の件数を表 4、その中で実際に指導・啓発した回数および人数の累計を表 5 に示した。

利用者による不適切な行動が確認された件数は計 247 件（斜里町 239 件、羅臼町 8 件）であった。行動別で最も件数が多かったのは、ヒグマ出没時の降車で 99 件、次いでヒグマに起因する交通障害が 91 件であった。地区ごとの件数では、斜里町では幌別－岩尾別地区が最も多く 158 件、次いで幌別川－オペケプ川地区が 80 件であった。羅臼町では、湯ノ沢町－知床峠地区のみで確認され、8 件であった。

利用者へ実施した啓発・指導回数および人数は、計 444 回／1,684 人（斜里町 442 回／1,682 人、羅臼町 2 回／2 人）であった。啓発・指導回数および人数を地区ごとにみると、斜里町では幌別－岩尾別地区が最も多く、次いで幌別川－オペケプ川地区であった。羅臼町では湯ノ沢町－知床峠地区のみであった。

なお、改正自然公園法による規制対象である「ヒグマへの著しい接近又は付きまとい」や「野生動物への餌やり」に該当する可能性のある案件は、「ヒグマへの付きまとい（接近のうち特に悪質と思われるもの）」が 7 件（斜里 7 件、羅臼 0 件）、「野生動物への餌やり又は誘引物の投棄」が 2 件（斜里 2 件、羅臼 0 件）であった。改正自然公園法に違反している可能性のある行為を発見した場合は、行為者に注意をしたうえで改善されなかった場合、環境省担当官へ速やかに連絡した。野生動物への餌付けが疑われる事例は 3 件確認されたが、うち 2 件はいずれも不法投棄された状態の誘引物を発見した事例であり、実際に利用者に対して指導を実施することはできなかった（写真 12）。

表 4. パトロール中に確認された利用者による不適切な行動別の件数（2023 年 4 月から 2024 年 3 月）

地区区分	ヒグマ出没時の降車	ヒグマに起因する交通障害	ヒグマへの意図的な接近	ヒグマへの付きまとい（接近のうち特に悪質と思われるもの）	野生動物への餌やり又は誘引物の投棄	計
幌別-岩尾別地区	57	66	27	7	1	158
知床五湖園地地区	0	0	0	0	0	0
イダシュベツ - カムイワッカ地区	0	0	0	0	0	0
斜 知床連山登山道地区	0	0	0	0	0	0
里 知床横断道地区	0	0	0	0	1	1
知床岬地区	0	0	0	0	0	0
幌別川-オベケブ川地区	39	24	13	3	1	80
小計	96	90	40	10	3	239
崩浜 - 知床岬地区	0	0	0	0	0	0
ルサ - 相泊地区	0	0	0	0	0	0
羅 湯ノ沢町 - 知床峠地区	3	1	4	0	0	8
白 羅臼岳登山道地区	0	0	0	0	0	0
羅臼市街地北側 - 岬町地区	0	0	0	0	0	0
小計	3	1	4	0	0	8
合計	99	91	44	10	3	247

※集計は 2024 年 3 月 12 日現在

(単位：件)

※降車に伴い交通障害が発生した場合は、「ヒグマに起因する交通障害」に分類した。

表 5. 利用者へ実施した地区別の啓発・指導回数および人数（2023 年 4 月から 2024 年 3 月）

地区区分	ヒグマ出沒時の降車		ヒグマに起因する交通障害		ヒグマへの意図的な接近		ヒグマへの付きまとい（接近のうち特に悪質と思われるもの）		野生動物への餌やり又は誘引物の投棄		総計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
	幌別-岩尾別地区	95	313	110	452	45	137	12	14	0	0	262
知床五湖園地地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イダシュベツ - カムイワッカ地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斜 知床連山登山道地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
里 知床横断道地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幌別川 - オベケブ川地区	84	322	57	330	29	99	9	13	1	2	180	766
小計	179	635	167	782	74	236	21	27	1	2	442	1682
崩浜 - 知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ルサ - 相泊地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羅 湯ノ沢町 - 知床峠地区	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2
白 羅白岳登山道地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羅白市街地北側 - 岬町地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	179	635	169	784	74	236	21	27	1	2	444	1684

※集計は 2024 年 3 月 12 日現在

(単位：件・人)



写真 12. 国立公園内に投棄され野生動物に物色されたゴミ（斜里町：5月5日）

パトロール中に確認された利用者の不適切な行動のうち、特記すべき事例としては、サケ遡上シーズンの岩尾別川周辺においてヒグマへの接近及び交通渋滞が頻繁に発生したことが挙げられる。このような事例は例年、春から秋にかけてのグリーンシーズンに町道岩尾別温泉道路沿いで主に発生しており、特に秋期に多い傾向がある（写真 13）。10月15日に発生した事例では、町道岩尾別温泉道路付近や岩尾別橋において4回の対応を実施した。環境省担当官と共にヒグマを観察する利用者に対して複数回指導、啓発を実施したが、道路からヒグマが見えている状態では事態が収束しなかった。同日は休日で利用者が多く訪れていたこともあり、指導は27回以上実施し、延べ指導人数は201人となった。



写真 13. 岩尾別川付近に出没したヒグマを撮影する利用者（斜里町：9月13日）

### 3.1.2. 野生動物に関する情報発信

ヒグマ等の野生動物との共生を図るため、一般ビジターや登山者、釣り人、カメラマン等の利用者に向けて、守るべきルールやマナー、注意事項等を示した情報発信や情報周知看板並びにヒグマ生息地看板の設置および撤去を行った。

#### (1) 利用者の安全のための緊急的な情報発信及び周知看板

ヒグマ等の野生動物の出没により、保護地域内の施設を利用する上で危険があると判断された際には、各施設および関係機関に周知するとともに、その旨を知らせる情報発信及び看板を作成、設置した。利用者に危険が及ぶ可能性があったために注意喚起の情報発信（web媒体）を行った事例は、16件であった（表6）。情報周知看板を設置した事例は斜里町で10件、羅臼町で6件であった（表7、図4から図20）。なお、設置した看板は危険な状況が収束した際に撤去した。

表 6. 利用者の安全のために緊急的に情報発信した事例一覧

日付	web 媒体	概要
4/9	X (旧 Twitter)	車のボンネットに手をかけるなど、車両に興味を持って接近するヒグマが国立公園内の道路沿いで確認されたため、注意喚起を促す発信を行った。
4/21	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	森づくりの道・開拓小屋コースで利用者がヒグマに接近され、追いかける事案が発生したため、注意喚起を促す発信を行った。
4/28	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	森づくりの道において利用者がヒグマに接近され、追いかける事案があり、注意喚起及び遊歩道閉鎖に関する情報発信を行った。
4/30	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	森づくりの道及びフレペの滝遊歩道において危険なヒグマにより遊歩道の利用を停止していたが、利用を再開したため、情報発信を行った。
5/27	X (旧 Twitter)	知床横断道路で道路上のヒグマを避けようとしたオートバイの転倒事故が発生したため、注意喚起を促す情報発信を行った。
5/30	X (旧 Twitter)	横断道路斜里側の道路上で車両を追いかけるヒグマの目撃情報を受け、注意喚起を促す情報発信を行った。
6/15	X (旧 Twitter)	ヒグマが遊歩道脇に定着する可能性の高い期間、フレペの滝遊歩道の入口を変更したため、情報発信を行った。
6/25	X (旧 Twitter)	知床国立公園の林内で複数人が連携し、ヒグマを追い回して撮影しているとの通報を受け、注意喚起を促す情報発信を行った。
7/1	X (旧 Twitter)	ヒグマの定着により閉鎖していたフレペの滝遊歩道の利用を再開したため、情報発信を行った。
7/6	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	ヒグマが定着する可能性を考慮して、幌別川及び幌別川河口周辺への立ち入りに関する注意喚起を促す情報発信を行った。
7/14	X (旧 Twitter)	遊歩道脇にヒグマが滞留・定着している状況を受け、フレペの滝遊歩道を閉鎖したため、情報発信を行った。
7/19	X (旧 Twitter)	遊歩道脇にヒグマの新規痕跡があり、フレペの滝遊歩道の閉鎖を延長したため、情報発信を行った。
7/21	公式 HP ブログ	遊歩道脇にヒグマの新規痕跡があり、フレペの滝遊歩道の閉鎖を延長したため、情報発信を行った。
7/26	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	遊歩道脇にヒグマの新規痕跡があり、フレペの滝遊歩道の閉鎖を延長したため、情報発信を行った。
8/4	X (旧 Twitter) 公式 HP ブログ	ヒグマの滞留・定着により閉鎖していたフレペの滝遊歩道の利用を再開したため、情報発信を行った。
8/10	X (旧 Twitter)	知床国立公園内でのヒグマの目撃が相次いでいるため、注意喚起を促す情報発信を行った。

表 7. 利用者の安全のために緊急的に情報周知した事例一覧

日付	地区	場所の詳細	概要
4/21	幌別ー 岩尾別地区	森づくりの道 知床自然センター	人に対してストーキングをするヒグマが確認されたため、遊歩道を閉鎖し、注意喚起看板を設置（図 4）。
4/28	幌別ー 岩尾別地区	フレペの滝遊歩道	人に対してストーキングをする可能性のあるヒグマが確認されたため、遊歩道を閉鎖し、注意喚起看板を設置（図 5）。
4/28	幌別ー 岩尾別地区	幌別橋 見晴橋 知床自然センター	人や車両に興味を持って接近する危険なヒグマが確認されていたため、主に歩行者に注意を促す看板を設置（図 6、7）。
4/30	幌別ー 岩尾別地区	森づくりの道 フレペの滝遊歩道	経過観察や調査の結果、危険なヒグマは周辺に確認されなかったが、引き続き注意を促す看板を設置（図 8）。
5/9	知床連山 登山道地区	羅臼岳岩尾別登山口	登山者がヒグマに唸られる事例が立て続けに発生したため、注意喚起看板を設置（図 9）。
6/15	幌別ー 岩尾別地区	知床自然センター フレペの滝遊歩道	フレペの滝遊歩道上のエゾヤマザクラの液果にヒグマが誘引されるため、サクラの木を迂回するルートが設定された。注意喚起及び迂回路を設定した旨を伝える看板を設置（図 10）。
6/26	幌別ー 岩尾別地区	フレペの滝遊歩道	遊歩道付近のサクラの木に、人を恐れず接近するヒグマが定着したため、遊歩道を閉鎖し、注意喚起看板を設置（図 11）。
7/14 7/20 7/27	幌別ー 岩尾別地区	フレペの滝遊歩道	複数のヒグマが遊歩道付近のヤマグリに定着したため、危険な遭遇を回避するために遊歩道を閉鎖する旨の看板を設置（図 12）。
8/3	知床連山 登山道地区	硫黄山登山口	登山者が新噴火口付近にて親子ヒグマに接近される事例が頻発していたため、注意喚起看板を設置（図 13）。
8/10	幌別川ー オベケツ川 地区	フンベ川、三段の滝、 オシンコシンの滝	例年ヒグマと釣り人の軋轢が生じており問題となっていることから、釣り人に対する注意喚起看板を設置（図 14）。
6/30	羅臼岳 登山道地区	登山口 (羅臼温泉ルート)	登山道整備中の作業員が、子連れの母親グマからブラフチャージを受ける事例が発生したため、羅臼側登山道入り口に注意喚起看板を掲示（図 15）。
7/10	ルサー 知床岬地区	知床岬先端部地区	海岸に漂着したトド死体をヒグマが採食しているため、相泊入林箱に注意喚起看板を掲示（図 16）。
7/14	羅臼岳 登山道地区	登山口 (羅臼温泉ルート)	登山道周辺で親子グマの出没が続いているため、登山口の注意喚起看板の内容を更新（図 17）。
7/21	ルサー 知床岬地区	相泊 ルサフィールドハウス	知床岬先端部地区にて、同一のヒグマによるつきまといが 2 回発生したため、注意喚起看板を設置（図 18）。
7/24	羅臼岳登山 道地区	登山口 (羅臼温泉ルート)	羅臼岳下山中の登山者が子連れの母親グマからブラフチャージを受けたため、登山口の注意喚起看板の内容を更新（図 19）。
7/25	ルサー 知床岬地区	カモイウンベ	カモイウンベ川右岸付近にイシイルカ死体が漂着しているため、相泊入林箱やルサフィールドハウスに注意喚起看板を設置（図 20）。

斜里

羅臼

**要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)**

2023年4月21日午後16:40頃、森づくりの道・開拓小屋コースで利用者がヒグマに接近され、追いかけられる事案が発生しました。利用者はヒグマに対しクマ撃退スプレーを噴射しましたが、ヒグマはつけまわす行動を継続したようです。

**森づくりの道・開拓小屋コースは  
当面の間閉鎖となります**

A hiker was chased by a brown bear on the trail at April 21, 2023.  
Please bring a bear deterrent spray for your safety.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。  
(知床財団0152-24-2775)**



知床財団

図 4. 森づくりの道・開拓小屋コース入口に設置した遊歩道閉鎖の看板 (4/21)

**要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)**

2023年4月21日、森づくりの道・開拓小屋コースで利用者がヒグマに接近され、追いかけられる事案が発生したため、周辺のパトロールを強化していました。その状況下で4月28日、フレペの滝遊歩道にて人に向かってくる「そぶり」を見せるヒグマが確認されました。

**フレペの滝遊歩道は  
当面の間閉鎖となります。**



On April 21, Hiker was chased by a brown bear at the Forest Keepers Trail. In addition, a brown bear was seen pretending to chase a person in Furepe waterfall trail on April 28.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。  
(知床財団0152-24-2775)**

**この件に関する最新情報はコチラ⇒**



知床財団

図 5. 知床自然センターや遊歩道入口に設置した注意喚起看板 (4/28)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

2023年4月21日午後16:40頃、森づくりの道・開拓小屋コースで利用者がヒグマに接近され、追いかける事案が発生しました。  
**利用者はヒグマに対しクマ撃退スプレーを噴射しましたが、ヒグマはつけまわす行動を継続したようです。**

**〇トレッキング利用の際は・・・**

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。

A hiker was chased by a brown bear on the trail at April 21, 2023.  
 Please bring a bear deterrent spray for your safety.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。**  
 (知床財団0152-24-2775)



**知床財団**

図 6. 知床自然センターや遊歩道入口に設置した注意喚起看板 (4/28)

## 要注意ヒグマに警戒 (BEAR ALERT!)

興味を持って人や車両に接近する**危険なクマ**が複数います。  
**徒歩・自転車通行は危険**です。バスや車など、**車両の利用**を推奨します。

**〇徒歩や自転車で通行する際は・・・**

- ・クマ撃退スプレーを携行！
- ・声出しや手叩き等で、人間の存在をアピール！

**〇遭遇してしまったら・・・**

**静かに後ずさりして距離を確保！  
無理に通らない！**



**※ヒグマ目撃情報は直ちにご連絡下さい。**  
**(知床財団 TEL:0152-24-2775)**

※クマ撃退スプレーは、知床自然センターでレンタルできます。  
 環境省・斜里町・知床財団・斜里警察署

Several dangerous bears have been identified in this area, therefore we recommend you to take a bus.  
 If you walk on this sidewalk, we recommend carrying bear deterrent spray. Please be aware of bears!

図 7. 知床自然センターや国道沿いに設置した注意喚起看板 (4/28)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

・2023年4月21日、森づくりの道・開拓小屋コースで利用者がヒグマに接近され、追いかけられる事案が発生し、4月28日、フレペの滝遊歩道にて人に向かってくる「そぶり」を見せるヒグマが確認されました。

### 〇トレッキング利用の際は・・・

- ・クマ撃退スプレーの携行、もしくは2名以上での散策を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。



On April 21, Hiker was chased by a brown bear at the Forest Keepers Trail. In addition, a brown bear was seen pretending to chase a person in Furepe waterfall trail on April 28.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。**  
(知床財団0152-24-2775)

知床財団

図 8. 知床自然センターや遊歩道入口に設置した注意喚起看板 (4/30)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

2023年5月5日午前8:00頃、オホーツク展望(標高500m)付近で、登山者がヒグマと至近距離で遭遇し、ヒグマが唸り声を上げ、登山者に接近するような素振りを見せる事案が発生しました。また、5月7日午前8時頃にも、標高420m付近で登山者がヒグマに唸られる事案が発生しました。

### 〇入山の際は・・・

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。



Hikers were chased by a brown bear on May 5 and 7.  
Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Nature Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。** (知床財団0152-24-2775)

知床財団

図 9. 羅臼岳岩尾別登山口に設置した注意喚起看板 (5/9)

**フレペの滝遊歩道：一部区間閉鎖中  
迂回路をご使用下さい。**

**Trail entrypoint to Furepe Waterfall is temporarily changed.  
You can access the Waterfall using the detour route  
shown on the map. Sorry for your inconvenience.**

フレペの滝遊歩道脇にあるヤマザクラの木に毎年ヒグマが定着し、利用者との危険な遭遇が頻発したため、ヒグマが定着する期間(6/16~7/15)については、遊歩道の一部を変更して迂回路を設定しています。

**・フレペの滝には、迂回路からアクセスできます。**  
**・シカ柵コースは、しれとこ100平方メートル運動ハウス横の作業道からアクセスできます。**

To access "Deer Fence course", pass the "100sq.meter Movement House" and enter from the temporary entrance (look for the signage).

※一時閉鎖の期間は、ヒグマの出没状況に応じて変更する可能性があります。 

図 10. フレペの滝遊歩道入口に設置した注意喚起看板 (6/15)

**フレペの滝遊歩道閉鎖中!**  
**Furepe Waterfall Trail is closed.**

2023年6月25日、フレペの滝遊歩道にて遊歩道脇のサクラの木にヒグマが定着していることが確認されました。  
当該ヒグマは人を恐れる様子がなく、利用者の方向に接近してきました。  
今後もこのヒグマが滞留する可能性が高いことから、  
当面の間遊歩道を閉鎖することとなりました。

A brown bear was sighted on the Furepe Waterfall Trail at June 25, 2023.  
The brown bear showed no fear of humans and approached in the direction of the user. The trail will remain closed until further notice.

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。  
(知床財団0152-24-2775)**



図 11. フレペの滝遊歩道入口に設置した注意喚起看板 (6/26)

## フレペの滝遊歩道：一時閉鎖中

Furepe Waterfall trail is temporarily closed due to bear activity.

フレペの滝遊歩道では、連日ヒグマが出没しており、  
ここ数日は遊歩道脇に複数のヒグマが  
滞留・定着しています。

至近距離での危険な遭遇を回避するため、  
遊歩道を7/21(金)まで閉鎖いたします。

※出没状況により、開放日は前後する可能性があります。

Furepe Waterfall Trail is closed due to bear activity until July 21th.  
Depending on bear activities, this trail may open earlier than scheduled.

斜里町・知床財団 

## フレペの滝遊歩道：一時閉鎖中

Furepe Waterfall trail is temporarily closed due to bear activity.

フレペの滝遊歩道では、連日ヒグマが出没しており、  
ここ数日は遊歩道脇に複数のヒグマが  
滞留・定着しています。

至近距離での危険な遭遇を回避するため、  
遊歩道を7/28(金)まで閉鎖いたします。

※出没状況により、開放日は前後する可能性があります。

Furepe Waterfall Trail is closed due to bear activity until July 28th.  
Depending on bear activities, this trail may open earlier than scheduled.

斜里町・知床財団 

## フレペの滝遊歩道：一時閉鎖中

Furepe Waterfall trail is temporarily closed due to bear activity.

フレペの滝遊歩道では、連日ヒグマが出没しており、  
遊歩道脇に複数のヒグマが滞留・定着しています。

至近距離での危険な遭遇を回避するため、  
遊歩道を8/4(金)まで閉鎖いたします。

※出没状況により、開放日は前後する可能性があります。

Furepe Waterfall Trail is closed due to bear activity until August 4th.  
Depending on bear activities, this trail may open earlier than scheduled.

斜里町・知床財団 

図 12. フレペの滝遊歩道入口に設置した注意喚起看板（7/14 上、7/20 中、7/27 下）

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

新噴火口付近で、人を忌避しない親子グマの目撃が頻発しています。親子グマは、登山道付近に滞留しており、登山者に接近するような素振りを見せたといった情報も入っています。

### ○入山の際は・・・

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。
- ・登山道付近にヒグマが滞留している場合は、無理に通ろうとせず引き返してください。



Recently, brown bears that do not avoid trekkers have been sighted frequently at the louzan-trail. Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Nature Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。(知床財団0152-24-2775)

知床財団

図 13. 硫黄山登山口に設置した注意喚起看板 (8/3)

## ヒグマが頻繁に出没します！ 食料・ゴミ管理の徹底を！

○知床では釣り人のマナー違反によって、以下の事例が発生しています。

- ・ヒグマが釣り人の魚を奪う
- ・ヒグマが釣り人の荷物を漁る
- ・ヒグマが魚の内臓 (残滓) に餌付いて徘徊する



○守るべき最低限のルールとマナー

- ・周辺にヒグマがいないかよく確認する
- ・**ゴミや魚の内臓などの残置や不法投棄を絶対にしない**
- ・クマが出たら**魚と荷物を持って避難する**

○投棄された魚の内臓にヒグマが餌付くなど、危険な状況が発生した場合には、行政判断で**立ち入り制限**を検討します。



※ ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい (知床財団0152-24-2775)

斜里町・知床財団

図 14. フンベ川、三段の滝、オシンコシンの滝に設置した注意喚起看板 (8/10)

## ヒグマに注意 (Bear Alert!)

2023年6月29日14:40頃、「第1の壁」と「第2の壁」間の登山道にて、草刈り中の作業員が、0才の子グマ1頭を連れた母親グマからブラフチャージ(威嚇突進)を受ける事案が発生しました。

### ○入山の際は…

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。

**\* ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。**  
(羅臼町役場産業創生課 0153-87-2126)

環境省・林野庁・羅臼町・知床財団

図 15. 羅臼側登山道入り口に掲示したヒグマ注意喚起看板 (6/30)

## ヒグマとの危険な遭遇に注意！

2023年7月10日(月)

カブト岩(羅臼側) トド死体有り ヒグマ誘引中

7月9日時点でカブト岩の羅臼側でトドの死体を食べているヒグマが確認されています。立ち入りの際は、十分ご注意ください。

この先知床岬までの海岸トレッキングについては、想像以上の危険が伴います。したがって、十分な心構えと装備無しのトレッキングはお勧めしません。



環境省・林野庁・羅臼町・知床財団

※ ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。 羅臼町役場 0153-87-2126

図 16. 相泊入林簿やルサフィールドハウスに掲示したヒグマ注意喚起看板 (7/10)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

2023年6月下旬以降、羅臼町側の「第一の壁」から「屏風岩」にかけての登山道で、たびたび親子グマ(0才子グマ2頭連れ)が出没しています。

- ・6/29: 草刈り中の作業員が母グマにブラフチャージを受けた。
- ・6/29~7/12: 計8回の親子グマの目撃あり。

### ○入山の際は・・・

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。



Bear Encounters **happens frequently** at the Rausu Onsen Route.

Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Rausu Visitor Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

\*ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。(羅臼町役場: TEL 0153-87-2126)

環境省・林野庁  
羅臼町・知床財団

図 17. 羅臼側登山道入り口に掲示したヒグマ注意喚起看板 (7/14)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

7月20日 知床岬灯台付近 亜成獣サイズのヒグマ 人に接近

2023年7月20日、知床岬先端部の灯台付近にて、人に接近してくるヒグマが確認されています。ヒグマの大きさは亜成獣サイズです。



接近してきたヒグマ。時間を置いて後送行動を2回確認。(7月20日撮影 写真提供: 環境省副官 自然環境事務所)

### ○海岸線トレッキングの際は・・・

- ・クマ撃退スプレーを携行してください。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、**ヒグマを刺激せず**、後ずさるなどして距離を確保してください。

On July 20, Hiker was chased by a brown bear near the Cape Shiretoko Lighthouse.

Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Rausu Visitor Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

\*ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。(羅臼町役場: TEL 0153-87-2126)

環境省・林野庁  
羅臼町・知床財団

図 18. 相泊入林簿やルサフィールドハウスに掲示したヒグマ注意喚起看板 (7/21)

## 要注意ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

2023年6月下旬以降、羅臼町側の「第一の壁」から「屏風岩」にかけての登山道で、たびたび親子グマ(0才子グマ2頭連れ)が出没しています。

- ・6/29: 草刈中の作業員が母グマにブラフチャージ(威嚇突進)を受けた。
- ・7/23 12:00頃、「第1の壁」と「第2の壁」間の登山道にて、下山中の登山者が、母グマからブラフチャージを受けた。

○入山の際は・・・

- ・クマ撃退スプレーの携行を推奨します。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、ヒグマを刺激せず、後ずさるなどして距離を確保してください。



Bear Encounters **happens frequently** at the Rausu Onsen Route.  
Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Rausu Visitor Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

環境省・林野庁  
羅臼町・知床財団

**\*ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。(羅臼町役場: TEL 0153-87-2126)**

図 19. 羅臼側登山道入り口に掲示したヒグマ注意喚起看板 (7/24)

## ヒグマに警戒 (Bear Alert!)

2023年7月24日 カモイウンベ川付近(羅臼側) イシイルカ死体あり

カモイウンベ川から羅臼側100~200mの地点にイシイルカの死体が漂着しています(7/24確認)。クマを誘引している恐れがありますのでご注意ください。



イシイルカ死体位置図

○海岸線トレッキングの際は・・・

- ・クマ撃退スプレーを携行してください。
- ・周囲の状況に十分に注意してください。
- ・見通しの悪い場所では、声出しや、手叩きなどで、自分の存在をアピールしてください。
- ・至近距離でヒグマと遭遇した際には、ヒグマを刺激せず、後ずさるなどして距離を確保してください。



On July 24, **Dead dolphin** found near the Kamoiunbe River.  
Please bring a bear deterrent spray for your safety. You can rent it at Shiretoko Rausu Visitor Center. It's a matter of LIFE or DEATH.

環境省・林野庁  
羅臼町・知床財団

**\*ヒグマに関する情報はすぐにご連絡下さい。(羅臼町役場: TEL 0153-87-2126)**

図 20. 相泊入林簿やルサフィールドハウスに掲示したヒグマ注意喚起看板 (7/25)

## (2) ヒグマ生息地看板および野生動物保護に関する啓発看板

斜里町および羅臼町の保護地域内計 21 地点において、ヒグマ出没に関する注意事項を示したヒグマ生息地看板と野生動物保護に関する啓発看板の設置および撤去を行った。

### ① ヒグマ生息地看板の設置と撤去

利用者に向けてヒグマの生息地であることを啓発する看板の設置を行った。設置場所は国立公園内の道路沿いやカムイワッカといった利用拠点周辺で、斜里町側に 12 基、羅臼町側に 3 基をそれぞれ設置した (図 21、22)。看板の内容は設置場所によって一部異なり、A 型から D 型の日本語版 4 種類に C 型と D 型のみ外国語版を加え全部で 6 種類となった (図 23 から図 26)。看板は雪解け後もしくは設置する道路の通行止めの解除に合わせて設置し、積雪前に撤去した。設置場所や設置期間の詳細は表 8 に示した。また、ヒグマ生息地看板の設置状況を写真 14 から写真 26 に示した。

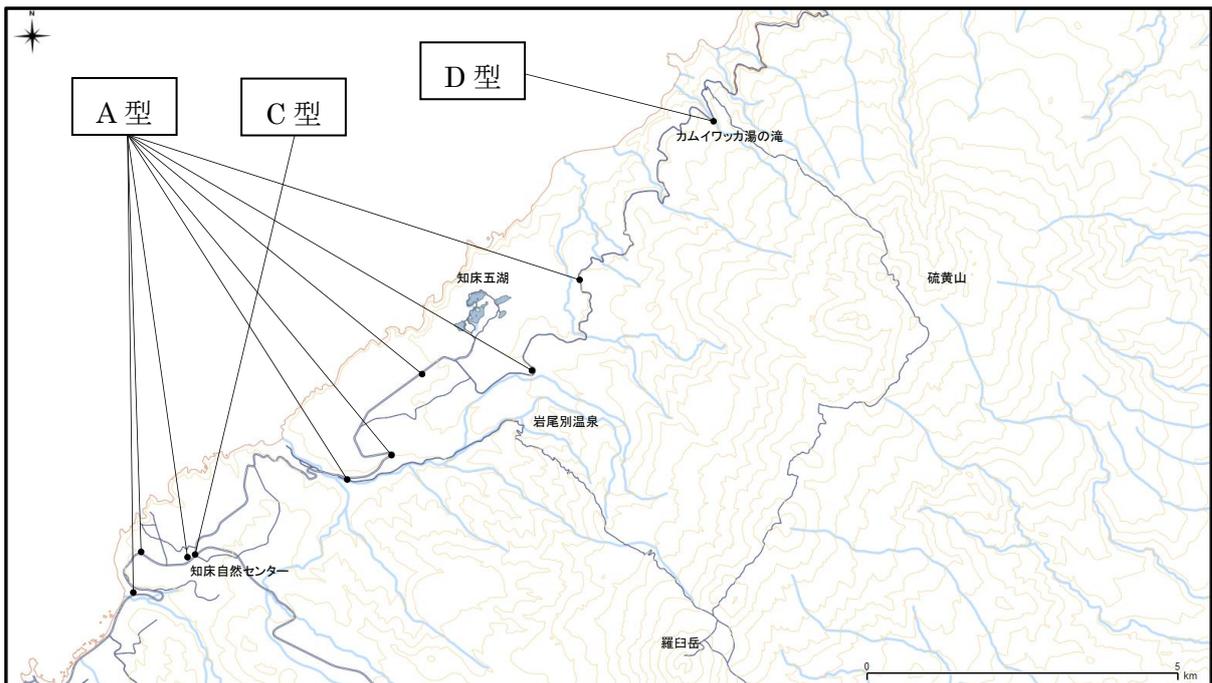


図 21. 斜里町内におけるヒグマ生息地看板設置位置図 (C 型と D 型は同一箇所に 2 基設置)

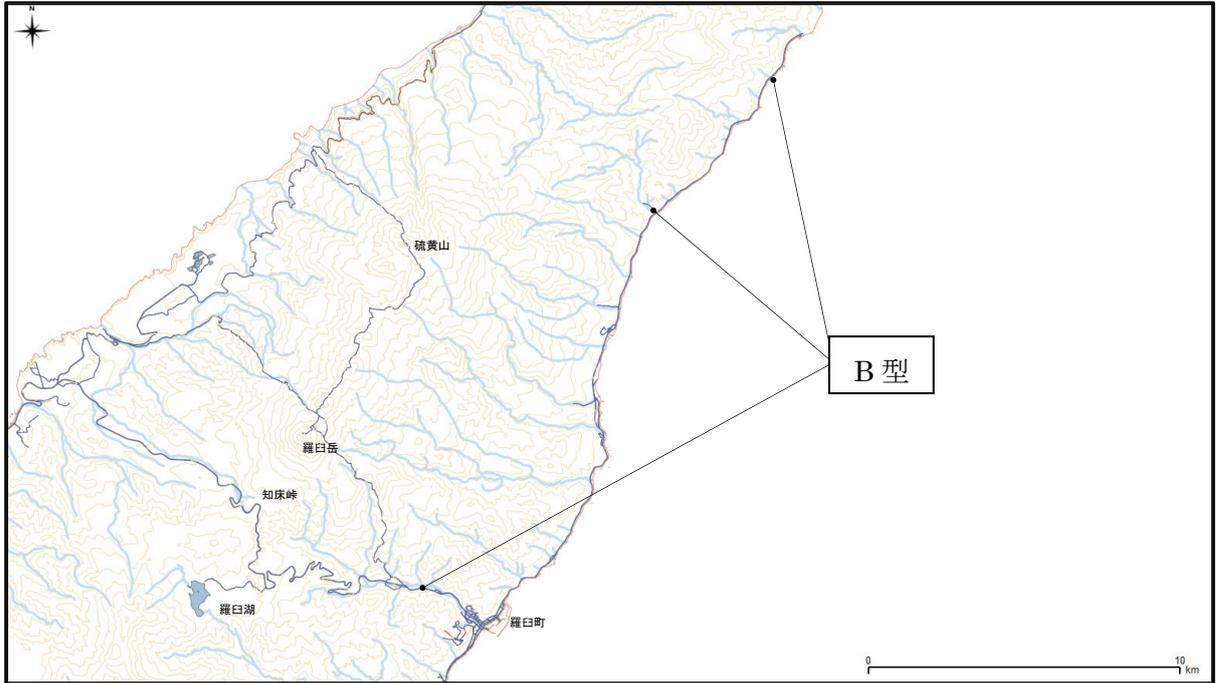


図 22. 羅臼町内におけるヒグマ生息地看板設置位置図

表 8. ヒグマ生息地看板の設置場所及び設置期間

No.	型	設置場所	設置期間
1	A	知床公園線（五湖カムイワッカ カーブミラーNo. 29 から 30）	6/1 から 10/19
2	A	知床公園線（五湖からカムイワッカ カーブミラーNo. 49）	6/1 から 10/19
3	A	知床公園線（岩尾別台地直線道路）	4/20 から 11/22
4	A	知床公園線（岩尾別台地ヘアピンカーブ）	4/20 から 11/22
5	A	町道岩尾別温泉道路（ゲート付近）	4/20 から 10/19
6	A	国道 334 号（幌別橋付近）	4/12 から 11/22
7	A	国道 334 号（プユニ岬付近）	4/12 から 11/22
8	A	国道 334 号（知床自然センター入口付近）	4/12 から 11/22
9	B	湯ノ沢パーキングエリア脇	4/14 から 11/13
10	B	ルサ川河口左岸道道沿い	4/22 から 11/13
11	B	瀬石温泉パーキング	4/14 から 11/13
12	C（日本語）	知床自然センター駐車場	4/12 から 11/22
13	C（外国語）	知床自然センター駐車場	4/12 から 11/22
14	D（日本語）	カムイワッカ湯の沢入口	6/1 から 10/19
15	D（外国語）	カムイワッカ湯の沢入口	6/1 から 10/19

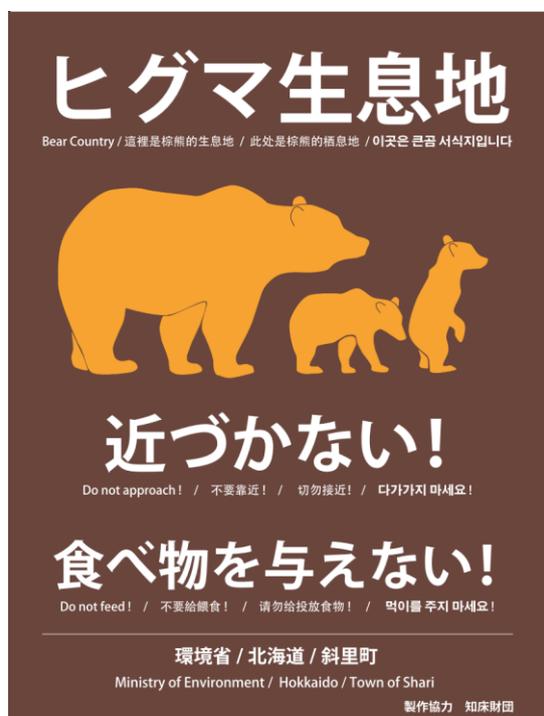


図 23. ヒグマ生息地看板 A 型（斜里町版）

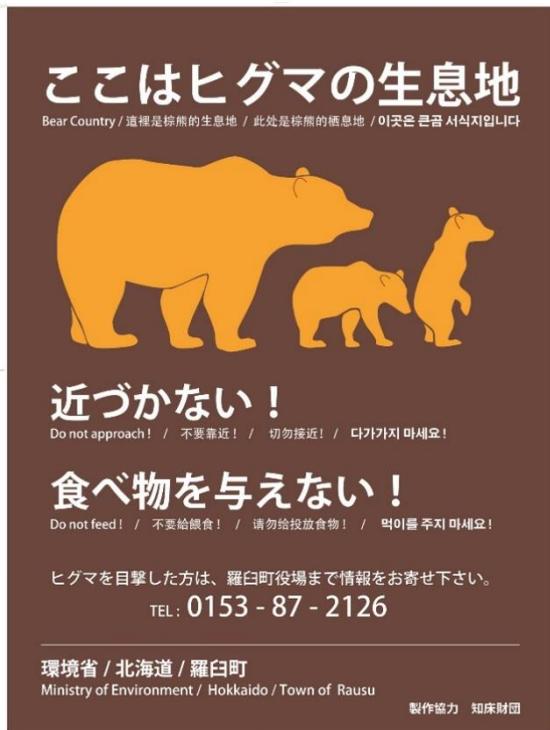


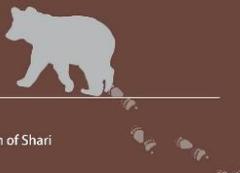
図 24. ヒグマ生息地看板 B 型（羅臼町版）

# ヒグマがいます！ あなたは大丈夫？

知床は全域がヒグマの生息地です。  
ヒグマが人前に姿を見せることも珍しくありません。  
フレベの滝遊歩道を利用する際は、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

- ☞ 早朝・夕方・霧などで視界が悪いときは立ち入らない。
- ☞ ゴミ捨て、食料の持ち込みは禁止。
- ☞ 犬を連れて立ち入らない。
- ☞ ヒグマに人の存在を知らせるため、頻繁に物音や声を出しながら歩く。
- ☞ ヒグマに出会ったら、騒がず、走らず、ゆっくり後退。絶対に近づかない。
- ☞ ヒグマに食べ物を与えない。

ヒグマを目撃した方は、知床財団（TEL:0152-24-2775）まで情報をお寄せ下さい。



環境省 / 北海道 / 斜里町  
Ministry of Environment / Hokkaido / Town of Shari

# Bear Country

這裡是棕熊的生息地 / 此处是棕熊的栖息地 / 이곳은 큰곰 서식지입니다

The whole area of Shiretoko Peninsula is a habitat for brown bears. Please comply with the following rules for your personal safety in this area.

知床是日本阿寒的「家」。在知床有可能會遇到日本棕熊。從各利用之文庫市的散步道時，請遵守以下規則。 / 知床是日本阿寒的「家」。此外在知床，有可能會遇到日本棕熊。從各利用之文庫市的散步道時，請遵守以下規則。 / 시레토코는 큰곰이 사는 곳입니다. 이곳에서는 큰곰과 마주칠 수도 있습니다. 후레베 폭포 산책로를 이용할 때는 다음 규칙을 지켜 주십시오.

- ☞ Do not enter at early morning, evening, or during low visibility conditions.  
早朝・夕方・霧などで視界が悪いときは立ち入らない。 / 早朝・夕方・霧などで視界が悪いときは立ち入らない。 / 시야가 나쁠 때(저녁-아침 야경)는 들어가지 마십시오.
- ☞ Do not litter. Do not take food into this area.  
禁止乱扔物品。禁止携带食物。 / 禁止乱扔物品。 禁止携带食物进入。 / 쓰레기 후기 금지 음식물 반입하지 마십시오.
- ☞ Do not bring dogs into this area.  
禁止携带狗进入。 / 禁止携带狗进入。 / 개를 데리고 들어가지 마십시오.
- ☞ Make noise or talk loudly while walking.  
走路時請發出聲或說話。 / 走路時請發出聲或說話。 / 소리를 내면서 다니십시오.
- ☞ If you encounter a bear, do not run away as this often triggers the bear's instinct to chase. Be calm and slowly move away from the bear.  
知床廣域上熊類及棕熊가 不來進。不要慌張。慢慢後退，注意不要刺激到棕熊。 / 知床廣域上熊類及棕熊가 不來進。不要慌張。慢慢後退，注意不要刺激到棕熊。 / 만약 큰곰을 만나면 달리지 마세요. 허둥대지 마세요. 큰곰을 자극하지 않도록 천천히 후퇴.
- ☞ Do not feed. 不要給棕熊食。 / 請勿給棕熊食。 / 먹이를 주지 마세요.

Please report all bear incidents and encounters to the staff at Shiretoko Nature Foundation (TEL:0152-24-2775).

棕熊遇到棕熊的人，請快報知知床財團。 / 棕熊遇到棕熊的人，請快報知知床財團。 / 큰곰을 목격하신 분은 시레토코재단에 경보를 보내주시기 바랍니다.

製作協力 知床財団

图 25. ヒグマ生息地看板 C 型（上側 日本語、下側 外国語、フレベの滝遊歩道版）

## ヒグマがいます！ あなたは大丈夫？

知床は全域がヒグマの生息地です。  
ヒグマが人前に姿を見せることも珍しくありません。  
カムイワッカ湯の滝を利用する際は、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

- 🐾 早朝・夕方・霧などで視界が悪いときは立ち入らない。
- 🐾 ゴミ捨て、食料の持ち込みは禁止。
- 🐾 犬を連れて立ち入らない。
- 🐾 ヒグマに人の存在を知らせるため、頻繁に物音や声を出しながら歩く。
- 🐾 ヒグマに出会ったら、騒がず、走らず、ゆっくり後退。絶対に近づかない。
- 🐾 ヒグマに食べ物を与えない。

ヒグマを目撃した方は、知床財団（TEL:0152-24-2775）まで情報をお寄せ下さい。



環境省 / 北海道 / 斜里町  
Ministry of Environment / Hokkaido / Town of Shari

## Bear Country

這裡是棕熊的生息地 / 此处是棕熊的栖息地 / 이곳은 큰곰 서식지입니다

The whole area of Shiretoko Peninsula is a habitat for brown bears. Please comply with the following rules for your personal safety in this area.  
知床是日本列島の「家」。在知床有可能会遇到日本棕熊。请遵守以下规则。/  
知床是日本列岛的“家”。此外在知床，有可能会遇到日本棕熊。请遵守以下规则。/  
시레토코는 큰곰이 사는 곳입니다. 이곳에서는 큰곰과 마주칠 수도 있습니다. 이용할 때는 다음 규칙을 지켜 주십시오.

- 🐾 Do not enter at early morning, evening, or during low visibility conditions.  
熊出没低視(傍晚・清晨)時不要進入。/ 視界不良時(傍晚至早上)時勿進入。/  
시야가 나쁠 때(저녁-이른 아침)는 들어가지 마십시오.
- 🐾 Do not litter. Do not take food into this area.  
禁止亂扔雜物。/ 禁止帶食物。請將所有食物帶走。/  
쓰레기나 음식물 쓰레기를 반입하지 마십시오.
- 🐾 Do not bring dogs into this area.  
犬不要帶狗進入。/ 請勿帶狗進入。/ 개를 데리고 들어가지 마십시오.
- 🐾 Make noise or talk loudly while walking.  
走路時請發出響亮或聲音。/ 走路時請發出响亮或聲音。/ 소리를 내면서 다니십시오.
- 🐾 If you encounter a bear, do not run away as this often triggers the bear's instinct to chase. Be calm and slowly move away from the bear.  
知床島上了解棕熊時不要跑。不要慌張。慢慢後退。這會不要刺激到熊。/  
知床島上了解棕熊時不要跑。不要慌張。慢慢後退。這會不要刺激到熊。/  
만약 큰곰을 만나면 달리지 마세요. 허겁지겁 마세요. 큰곰을 자극하지 않도록 천천히 후퇴.
- 🐾 Do not feed. 不要給熊食。/ 請勿給熊食物。/ 먹이를 주지 마세요.

Please report all bear incidents and encounters to the staff at Shiretoko Nature Foundation (TEL: 0152-24-2775).  
知床島上所有熊的意外或相遇請向知床財團的人。請向知床島知床財團的人。請向知床島知床財團的人。/  
큰곰을 목격하신 분은 시레토코재단에 경보를 보내주시기 바랍니다.

製作協力 知床財団

图 26. ヒグマ生息地看板 D 型（上側 日本語、下側 外国語、カムイワッカ湯の滝版）



写真 14. 知床公園線（カーブミラーNo. 29、No. 30 付近）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 1、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 15. 知床公園線（カーブミラーNo. 49 付近）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 2, A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 16. 知床公園線（岩尾別台地直線道路）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 3、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 17. 知床公園線（岩尾別台地ヘアピンカーブ）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 4、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 18. 町道岩尾別温泉道路（ゲート付近）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 5、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 19. 国道 334 号幌別橋付近に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 6、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 20. 国道 334 号（ブユニ岬付近）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 7、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 21. 国道 334 号（知床自然センター入口付近）に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 8、A 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 22. 湯ノ沢パーキングエリア脇に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 9、B 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 23. ルサ川河口左岸道道沿いに設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 10、B 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 24. 瀬石温泉パーキングに設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 11、B 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 25. 知床自然センターに設置しているヒグマ生息地看板（表 8 の No. 12 から 13、C 型）（通年設置）



写真 26. カムイワッカ湯の滝入口に設置したヒグマ生息地看板（表 8 の No. 14 から 15、D 型、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）

## ② 野生動物保護に関する啓発看板の設置・撤去

知床の河川に生息するオショロコマは、シマフクロウなどの希少猛禽類やほかの野生動物の食料資源となっている。そのため、オショロコマの人為的な減少を防ぐ目的として、キャッチ・アンド・リリースへの協力を呼びかける啓発看板を設置した(図 27)。設置場所は、羅臼町内の保護地域でオショロコマが生息している 6 河川とし、各河川に 1 枚ずつ設置した。なお、設置した看板は積雪期前に全て撤去した。各看板の設置場所や設置期間を表 9 に、設置状況を写真 27 から写真 32 に示した。



図 27. キャッチ・アンド・リリース看板の内容

表 9. 情報周知看板の設置場所および設置期間

No.	設置場所	設置期間
1	ルサ川河川敷	4/22 から 11/18
2	ケンネベツ川河川敷	4/14 から 11/18
3	チエンベツ川河川敷	4/14 から 11/18
4	モセカルベツベツ川河川敷	4/14 から 11/18
5	オッカバケ川河川敷	4/14 から 4/25 *
6	サシルイ川河川敷	4/14 から 11/18

\* オッカバケ川に設置した看板は 4/26 の強風にて破損。



写真 27. ルサ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 1、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 28. ケンネベツ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 2、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 29. チエンベツ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 3、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 30. モセカルベツ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 4、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 31. オッカバケ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 5、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）



写真 32. サシルイ川河川敷に設置したキャッチ・アンド・リリースの啓発看板（表 9 の No. 6、上：設置前、中：設置後、下：撤去後）

### 3.1.3. その他

#### ・特定外来生物に関する情報

7月9日及び10日に特定外来生物に指定されているアメリカミンクの死体を知床横断道路翔雲橋付近路上にて確認したとの情報が環境省アクティブ・レンジャーより寄せられた。7月9日に確認された死体はカラスに持ち去られたため回収できなかった（写真33）とのことであるが、7月10日にほぼ同一地点にて発見された死体は回収され、適切に処分した。状況からミンクの死体はそれぞれ別個体と推察された。

また、斜里町においては知床国立公園の特別保護地区である知床五湖周辺でアメリカミンクを目撃情報が複数件寄せられた（表10）。アメリカミンクは通常水辺を好むことから、知床五湖周辺において特に目撃が多いものと思われる。

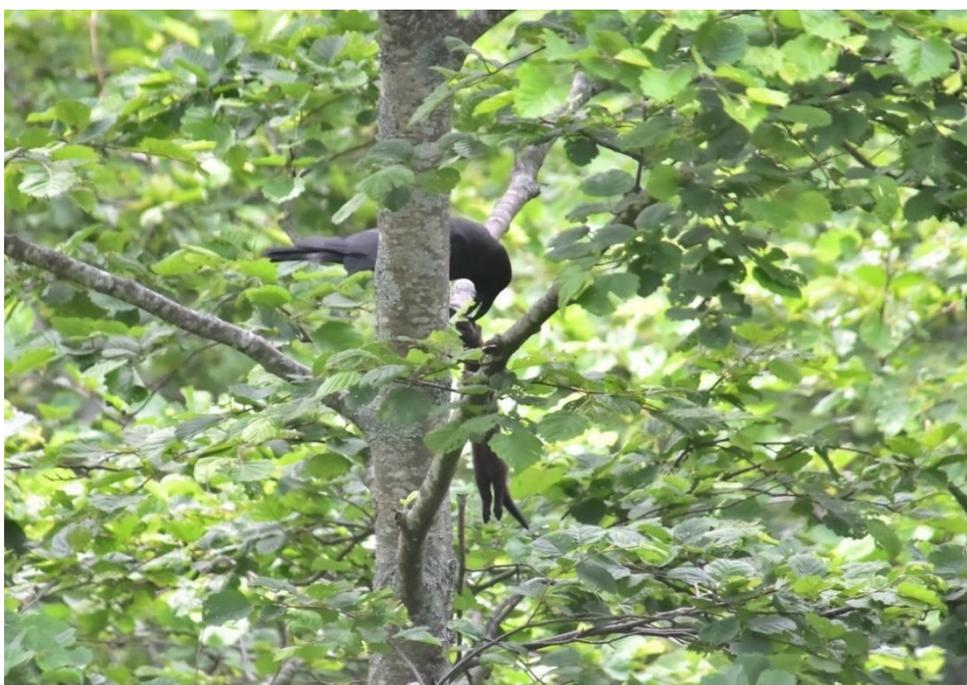


写真33. カラスに持ち去られたアメリカミンクの死体（羅臼町：7月9日）

写真提供：環境省羅臼自然保護官事務所

表 10. アメリカミンクの日撃情報

日付	目撃場所	頭数
6月7日	知床五湖 A地点遊歩道上	1
6月5日	知床五湖 O-P間	1
6月11日	知床五湖 J地点遊歩道上	1
7月7日	知床五湖 O-P間 E地点	1
7月19日	知床五湖 E地点過ぎたところ	2
7月20日	知床五湖 O-P間の2湖展望地木道脇	1
7月26日	知床五湖 N-O間	1
8月7日	知床五湖 $\gamma$ -P間	1
8月8日	知床五湖 H地点	1

## 3.2. 死亡・傷病鳥獣の処理対応

保護地域内で死亡もしくは傷病状態にある鳥獣（斜里町・羅臼町内で死亡もしくは傷病状態にある希少種含む）について、環境省担当官の指示を受け、指定された現地において傷病個体を確保し、状況に応じて収容等の作業を実施した。なお、周辺地域において既に高病原性鳥インフルエンザが発生している又はその発生が強く疑われる場合は、「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」のⅢ.3.3 に則り、保護個体を搬送、もしくは保護個体の一部又は全部を環境省担当官が指定する場所へ宅配便で送付した。

### 3.2.1. 保護個体が生体の場合

傷病鳥獣の対応件数は17件（斜里町：5件、羅臼町12件）であった（表11）。対応した個体は必要に応じて安楽殺処分や収容し応急処置を実施したのち、可能である場合は放逐等の対応を行った。

羅臼町で対応のあった鳥獣12件のうち、一般種の対応は6件、希少種に指定され保護増殖事業の対象であるオオワシおよびオジロワシに対する対応は6件発生した（不明ワシ類1件含む）。

オジロワシに関する対応のうち1件は、6月24日に礼文町にてオジロワシの幼鳥が自宅敷地内にいるとの通報であった（写真34）。他の2件は、6月24日と7月4日にいずれもカラスに襲われているオジロワシの幼鳥がいるのとの通報であった。最終的に、3件とも時期的に巣立ち直後のオジロワシ幼鳥と推察されるが、それぞれ特に外傷等もなく自力での飛翔が可能であったため、経過観察として対応を終了した。

オオワシに関する対応のうち1件は、2月4日に羅臼港に近い共栄町にて足を怪我したワシがいるとの通報があり現場に向かったが、すでに該当する個体の姿はなかった。もう1件は、翌日の2月5日に同じく羅臼港に近い船見町にて不安的に歩いているオオワシがいるとの通報があり現場へ向かったが、捕獲を試みた際に該当個体が飛び立ったため、その後は経過観察とした。

これらの希少種対応にあたっては、随時環境省羅臼自然保護官事務所ならびに羅臼町役場とも情報共有を実施した。

斜里町で対応のあったクマタカについては、保護時の症状から鳥インフルエンザへの感染が強く疑われていたため、猛禽類医学研究所（釧路）へ搬送されることとなり、保護後に環境省担当官へ引き渡した（写真35）。クマタカはその後搬送中に死亡が確認され、搬送

先で高病原性鳥インフルエンザに感染していたことが判明した。当該クマタカの鳥インフルエンザへの感染判明後は、消石灰による保護収容現場の消毒を実施した。

表 11. 2023 年 4 月から 2024 年 3 月の保護地域における一般種、および希少種の傷病対応状況

		動物種	保護地域	保護要因	その後の処置	件数	
斜	哺乳類	一般種	エゾシカ	内	衰弱	保護できず	1
			エゾシカ	内	衰弱	安楽殺	1
里	鳥類	一般種	アオジ	内	衰弱	経過観察	1
		希少種	シマフクロウ	内	衰弱	保護できず	1
		クマタカ	内	衰弱	環境省へ引渡し	1	
小計						5	
羅	哺乳類	一般種	エゾシカ	内	交通事故	経過観察	1
			エゾシカ	内	交通事故	安楽死処分	1
			エゾシカ	内	不明	放逐	2
			エゾシカ	内	不明	安楽死処分	1
白	鳥類	一般種	カワガラス	内	衝突	保護後に死亡	1
			オジロワシ	外	衰弱	経過観察	3
	希少種	オオワシ	外	負傷	経過観察	1	
		オオワシ	外	負傷	経過観察	1	
		不明ワシ類	外	姿なし	—	1	
小計						12	
合計						17	

※集計は 2024 年 3 月 12 日現在

(単位：件)



写真 34. 通報を受け現地で確認したオジロワシ幼鳥の様子（羅臼町：6月24日）



写真 35. 衰弱したクマタカの保護時の様子（斜里町：11月26日）

### 3.2.2. 保護個体が死体（生体が死亡した場合を含む）の場合

野生鳥獣死体の回収件数は20件（斜里町:15件、羅臼町:5件）であった（表12）。回収した死亡鳥獣のうち最も多かった動物種はエゾシカで、両町合わせて5頭であった。また、希少種の件数も多く、5件の対応があった。

特記事項として、オオワシの死体を回収した2件の事例が挙げられる。1件目は、4月2日に礼文町（トビニウス川内）にて死体を回収した（写真36）。2件目は、4月5日に峯浜町（陸志別川河口付近）にて回収した（写真37）。いずれの死体ものカラス等による被食があったが、その傷を除いて目立った外傷は見つからず、死因については不明であった。回収した死体は環境省に引き渡し対応を終了した。なお、いずれの死体からも高病原性鳥インフルエンザの感染は確認されなかった。これらの希少種対応にあたっては、随時羅臼町役場ならびに羅臼町郷土資料館とも情報共有を実施した。

表12. 2023年4月から2024年3月までの保護地域における一般種、および希少種の死体回収状況

		動物種	保護地域	個体数	
斜 里	哺乳類	一般種	エゾシカ	内	3
		一般種	エゾタヌキ	内	1
		一般種	エゾリス	内	3
	鳥類	一般種	アオジ	内	2
		一般種	ハシブトガラス	内	2
		一般種	アマツバメ	内	1
		希少種	シマフクロウ	外	1
		希少種	オジロワシ	外	1
				外	1
				小計	15
羅 臼	哺乳類	一般種	エゾシカ	内	2
	鳥類	一般種	コルリ	内	1
		希少種	オオワシ	外	2
			小計	5	
				合計	20

※集計は2024年3月12日現在

（単位：頭もしくは羽）



写真 36. トビニウス川内で発見されたオオワシの死体（羅臼町：4月2日）



写真 37. 陸志別川河口付近で発見されたオオワシの死体（羅臼町：4月5日）

### 3.2.3. 鳥インフルエンザの感染が疑われる場合

保護地域内で死亡もしくは傷病状態にある鳥獣（斜里町・羅臼町内で死亡もしくは傷病状態にある希少種含む）について、環境省担当官の指示を受けて、指定された現地において傷病個体を確保し状況に応じて収容等の作業を実施した。なお、周辺地域において既に高病原性鳥インフルエンザが発生している場合又はその発生が強く疑われる場合は、「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」のⅢ.3.3 に則り、環境省担当官と相談の上、保護個体を搬送した。

今年度は、本業務の対象地域内では斜里町において高病原性鳥インフルエンザへの感染個体が1件確認された。なお、本業務の対象範囲外である斜里町及び羅臼町の保護地域外では、鳥インフルエンザの感染個体は確認されなかった。高病原性鳥インフルエンザへの感染が確認された鳥類は、11月26日に斜里町において保護されたクマタカ1羽のみであった。



令和 5 年度 環境省釧路自然環境事務所 請負業務

事業名：令和 5 年度知床野生動物保護管理対策業務

事業期間：令和 5（2023）年 4 月 3 日 から令和 6（2024）年 3 月 31 日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531

知床自然センター内



リサイクル適性の表示：印刷用の紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [A ランク] のみを用いて作成しています。